

(公社) 日本給食サービス協会会長賞

『心に残った給食』

茨城県神栖市立植松小学校 四年一組 男子 山野 弘嗣

ぼくが給食で好きなメニューは、一位はとり肉のからあげ、二位はわかめごはん、三位はアイスクリームです。とり肉のからあげは、月に一回くらい給食に出てくれますが、わかめごはんは二月に一回くらい、アイスクリームにいたっては年に一回くらいしか給食に出てくれません。もう少しひんぱんに給食に出てくれたらなあと思います。

なかでも、とり肉のからあげ、とくに小学一年生の時に食べた「ゲンコツ」サイズのからあげが忘れられません。家で作るからあげ、保育園で食べたからあげも、もちろんおいしいのですが、小学校に入って食べたゲンコツからあげは、「格」がちがいます。まず大きさ。家のからあげ、保育園のからあげは食べやすくするために、またはあげやすく(調理しやすく)するために小さめに作ります。そのために、見ためのこうかさ(ダイナミックさ)が少しくすまる感じがするのです。その点小学校のからあげは、まさに、「ゲンコツ」なみの大きさなので、それがお皿にのったときのそんざい感は、まさしくメインディッシュにふさわしい王様のようです。

次からあげの食感がたまらないのです。からあげをかむと、表面のころもは「サクッ」、中は「ジュワッ」と肉じるが出てきてさらにおいしさをまします。給食メニューがからあげの時は、他の友達もほぼ完食します。

このように、大人気のとり肉のからあげが、ジャンケンに勝てばもう一つ食べられるという、スペシャルなチャンスがごくまれにあります。このとき、勝者にあたえられるとり肉のからあげをみんないっせいに見つめ「人生最大のバトル」にそなえます。給食の終わり五分前になると、みんなイスから立ち上がりジャンケンの始まりです。その時イスをしめる「ガシャン」という音が、ぼくらのゴングとなります。みんなドキドキきんちようしています。ぼくは「キヤリア」があるので全きんちようしません。みんなが同時に「最初はグー」、息を止めて「ジャンケンポン」。みんなのこぶしがいっせいに放たれます。ぼくは「勝ったか」と思いましたがあいこです。「これでもどうだ」ともう一度こぶしを放つとなんとまさしく「RKO」のように一人勝ちとなりました。あの時のうれしさは今も忘れられません。

給食のメニューの中には、ぼくが好きなメニューだけではなくきれいなメニュー(たとえば「ぬたあえ」)も、もちろんあります。でも、給食を作ってくれている調理師さんたちを感じしゃの気持ちを伝えるために、大きな声で「いただきます」、「ごちそうさまでした」を言うこと、給食は絶対に残さないこと、この二つを給食のマナーとしてぼくは守っています。